

薬理効果を検証するとともに、AKIの主因の一つである酸化ストレスに焦点を当て、障害抑制の分子機序解明に取り組んでおります。

今回の受賞を励みに、多くの研究成果を発信すべく、今後も研鑽を積み重ねてまいります。この度は、誠にありがとうございました。



**ダウン症候群モデルマウスを用いたオス生殖能力の解析**

熊本大学大学院先端機構

准教授 野田 大地

(生命資源研究・支援センター生殖機能学分野)



この度は、肥後医育振興会医学研究助成金を賜りまして、有難うございます。

また、推薦頂きました生命資源研究・支援センター疾患モデル分野の荒木喜美教授、および共同研究者の方々に御礼申し上げます。

私は、昨年四月に大阪大学微生物病

**令和三年度外国人留学生奨学金受賞者紹介**

熊本大学大学院医学教育部

博士課程一年 武 キイク



この度は公益財団法人肥後医育振興会外国人留学生奨学金を賜りまして、拝謝

いたします。また、ご推薦いただきました消化器外科科学講座の馬場秀夫教授に厚く御礼申し上げます。

私は中国の医学部を卒業し、消化器

外科の医師になる予定です。令和三年度四月から熊本大学大学院博士課程に入学し、消化器外科科学講座で日々研究を行っております。本学大学院にて、「GISTにおけるイマチニブ耐性の分子生物学的機序の解明」をテーマとした研究に取り込んでいます。研究に対する姿勢も勤勉であり、熱心に研究活動を行っています。

胃腸管間質腫(GIST)は非常に稀で、住民百万人当たり十〜十五件発

研究所の伊川正人教授のラボから異動して、生命資源研究・支援センターで生殖機能学分野を立ち上げました。分野名の如く、遺伝子組換えマウスやラットを作製して、特に受精関連遺伝子の機能解析を行っています(遺伝子改変マウスの作製支援も行っていますので、興味のある方はご連絡ください)。本助成のテーマである「ダウン症候群モデルマウスを用いたオス生殖能力の解析」は、同センターの南敬教授から生殖機能に関する研究はあまり進んでいないので、テーマの一つとして面白いんじゃないかと声をかけていただいたところからスタートしました。ダウン

生している。二〇〇年以前には、消化管間質腫の分子メカニズムが十分に理解されていなかったため、切除不能または転移性消化管間質腫に対する有効な治療法は存在しなかった。RTK阻害薬のイマチニブの導入は、胃腸管間質腫の治療を著しく改善させた。しかし、治療後二十〜二十四カ月で病気は最終的に進行するため、GISTがイマチニブに耐性メカニズムを解明することに意義があります。

今回の受賞を励みに、より良い研究者になりたいという目標を達成し、早く医療に貢献できるように、学業・研究

症の発生頻度は約千人に一人であり、高齢出産とともに発生率は上昇する傾向にあります。高齢出産が増えている日本では、今後ダウン症患者さんが増えることも予想され、本研究で得られる基礎的知見は意義があると考えています。

最後になりましたが、今回の受賞を励みに一層研究に精進するとともに、独立PIとして楽しみながらもオリジナルな研究をできるように頑張っております。この度は、誠にありがとうございました。

に集中して取り組みたいと考えております。今後とも、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

\* \* \*

熊本大学大学院医学教育部

博士課程一年 史 玉丹



この度は公益財団法人肥後医育振興会外国人留学生奨学金を賜りまして、拝謝

いたします。また、ご推薦いただきました代謝内科学講座の荒木栄一教授に